



To acknowledge the duty that accompanies every right"
Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU, OSAKA, JAPAN

2021年2月
No. **465**
Chartered
July 20, 1982

主題 Y's THEME (2020~21)

- センテニアルクラブ会長 『共に考え、共に歩む、まずは地固め』
- 国際会長 『命の川を信じよう』
- アジア太平洋地域会長 『変化をもたらそう』
- 西日本区理事 『Let's do it now!』
- 中西部部長 『ワイズの力を信じて、自ら行動しよう』

クラブ役員 Officers

- 会長 中村 茂高
- 副会長 三浦 直之
- 書記 大村 肇
- ドライバー 大村 肇
- 会計 岡本 剛介
- メネット担当 坂本 千春
- YMCA連絡職員 長尾 聡

Biblical Message of February

求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。
だれでも、求める者は受け、探すものは見つけ、
門をたたく者には開かれる。
(マタイによる福音書7章7-8節)

登ることの理由探し

中村 茂高

垂直に切り立つパキスタン・カラコルム山脈の鋭鋒シスパーレ(7611m)。その人類未到の北東壁に挑む二人の登山家、平出和也(38)と中島健郎(33)。NHK BSテレビ「銀嶺の空白地帯に挑む」を見た。力尽き、意識が朦朧(もうろう)とした状態でやっと登頂を果たすことができた二人。その感激はひとしおだ。

その登頂前日、ベースキャンプで、平出の言葉が印象に残る。「登らなければならない理由と、登らないで済む理由に悩む自分がそこにいる」。登山界のアカデミー賞と言われる「ピオレドール」を日本人として初受賞した男の言葉とは思えない気弱な一面をのぞかせる。

人間は皆弱いもので、その壁を越えることができるか否かは、悩んだ末「登らなければならない」理由を見つけた人がきっと人生の道を切り開くのでしょうか。

February Club Meeting 『TOF/CS/FF』

2月第1例会 (Web併用)

日 時: 2021年2月20日(土) 14:00~16:00
場 所: 大阪YMCA会館3F302号室
司 会: 坂本 千春 君

- 1. 開会 中村 茂高 会長
- 2. ワイズソング 一同(ウクレレ)
- 3. 聖句朗読 長尾 聡 君
- 4. ゲスト・ビジター紹介 中村 茂高 会長
- 5. 強調月間 坂本 千春 君
- 6. 卓話「YMCAと表コミ」 長尾 聡 君
- 7. お誕生祝い 一同
- 8. 連絡・報告・ニュース 各メンバーから
- 9. 閉会 中村 茂高 会長
- 10. ハワイアロハ 一同

お誕生日: 石津メン



2月第2例会 (web)

日時: 2021年2月24日(水) 19:30~20:30
ZOOMによるweb会議です。

1月		種別	第1例会 (web用)	第2例会 (web)	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員	17名	メン	10名	9名	1月 0g	1月 0円
例会出席	11名	メネット	2名	0名	現 金 0円	
うちメーキャップ	1名	ビジター	0名	0名	累 計	
出席率	64.7%	ゲスト	0名	1名	切 手 204g	累 計: 46,450円
		合計	12名	10名	現 金 0円	

今月の聖句

聖書はこう続きます。「あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子どもに、石を与えるだろうか。魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。」

このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがない。だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

表コミの生徒たちの3年間のステップとして、1. 自分を知る。2. 相手を知る。3. 気持ちを伝える。4. 相手の話を聴く。5. お互いを理解し合う。という3年間を送ります。

相手の気持ちを考えるときの助言として「人にしてもらって(言われて)嬉しい事、嫌な事」を考えて行動するように伝えていきます。

求めなければ与えられませんが、同じように、人に与えなければ、自分にも与えられないのだということを日々の中で経験しています。

(聖句選/コメント:長尾 聡)

1月第1例会

1月11日、コロナで中西部合同新年会が中止になったので、オンラインで、メンバーがどのようにお正月を過ごしたかを、何メンの名司会でリラックスした雰囲気の中で新年例会が行われた。

まず、中村茂高会長が年頭の挨拶で、「昨年はコロナ一色、年が明けても感染拡大の勢いは止まず。私たちもオンラインでの例会の形も定着したが、便利な反面、安易に用いるのもどうか。今年は、原点に立ち戻り、クラブのことを考えたい」と述べた。

また、メンバーからの正月の過ごし方については、「昨年家内と結婚50年の金婚式を迎え、奈良から伊勢志摩までGoToで行くことが出来た」「ほとんど外出せず、読書やテレビ、ラジオで時間を過ごしている」「施設にいる家内を週1回訪問。家内は持っていき好きなフルーツを食べ、家よりも快適に暮らしている」「ハワイ・ロータリーの例会にオンラインに参加し興味ある者同士がグループに分れて話すなど学ぶ点が多い」「毎朝、ラジオで英会話や古典の講座を聴き再勉強中」「専門の電子回路の工作を楽しんでいる」「勤務先の病院でコロナが感染したが、年明けには収まった。家では、『アレッサ』(AI音声認識)で遊んでいる」「勤めている西日本区事務所もテレワークをせざるを得ず、今後ワイズやYMCAの活動が心配」「町内会の餅つきや夜警も中止、正月は孫も来ず、初詣もなし。好きな楽器の練習をしている」「ミャンマーになかなか行けませんが、11月からマンダレーの学生とオンライン授業に参加している」など。コロナ禍でも皆さんが前向きに生活している姿にただただ感心。

1月第2例会 (WEB会議)

とき:2021年1月27日(水)19:30~21:30

出席:大村、坂本哲、芝田、谷川、長尾、中村隆、中村茂、三浦、山中秀 (ゲスト)藤井 10名

〈協議内容〉

- 大阪YMCAからのポジティブネット募金の件
大阪YMCAの子ども、高齢者、留学生の3事業に対し、目標2千万円を3月31日まで集める。身近な人に呼びかけを。
- クリスマス献金
大阪YMCAからクリスマスカードを20セット預かり、クラブでは7セット売れたが、残りはクラブで購入。
- ミャンマーの4つのワイズ設立のスポンサーの件
ミャンマーの4つのYMCAからワイズ設立の動きあり。中村隆幸メンと中村会長が中心となり、情報収集を。
- 大阪YMCAの会費の件
未納の方は、郵便振替かクレジット決済で3月末までに。
- 今後の例会
・3月14日(日)14時~16時 大阪YMCA会館10階チャペル
「元・社会部記者が解くミステリー事件簿」
元毎日新聞記者藤田昭彦さん
・4月10日(土)14時~16時 大阪YMCA会館10階チャペル
「グローバル時代の新しい高等教育」
~瀬戸内グローバルアカデミーの挑戦~
代表 長尾ひろみさん
- 新入会員の藤井孝三さんの入会の件
3月例会で入会式を行う。



YMCAニュース

新型コロナウイルス感染症拡大への対策のため、1月・2月の早天祈祷会を中止いたします。ご理解、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

(長尾 聡 TEL: 06-6441-0894)



GOING GLOBAL



EU (欧州連合)と英国 (要約)

なぜ英国は離脱を選んだのか？

谷川 寛

英国は2021年1月1日にEUから完全に離脱したが、昨年未難航したEUとのFTA(自由貿易協定)交渉は土壇場で決着。関税が復活するという最悪シナリオは回避した。英国は失った国家主権を回復、人々は離脱を祝ったが、果たして英国にとって、この結末はハッピー・エンドだったのか？

現在のEUの基本は、永続的平和を確立するために中核となる連合体を創設し、各国の国家主権を譲渡することが不可欠とジャン・モネは確信し、さらに関税障壁のない広大な欧州市場を創設することが必要と考えた。

当時経済が疲弊していた英国は1973年EEC(欧州経済共同体)に加盟し、この間に競争力を取り戻した。その後EUは、深化(Deepening)の政策を推し進める中で、東欧諸国から移民が増加するという事態に直面し、ポーランドなどからの移民が大量に流れ込み、英国の失業率は上昇した。

2016年、英国は国民投票でEU「離脱」が僅差で勝利。T.メイ首相は、17年9月の演説で離脱する道を選んだ。しかし離脱した代償は高くつくことになる。EUとの交渉は難航したが、英国はEUから国家主権を回復、自由に法律や規制を作れるようになり、東欧圏からの移民も規制できるようになった。B.ジョンソン首相は、EUとの合意内容に満足だとして、人々は主権回復を祝ったが、EUとの国境は復活、通関業務などの手間やコストがかかることになる。しかも北アイルランドの国境問題、スコットランドのEU残留から「英国から独立」の機運が高まりそうだ。英国は、年明けの4日、ユーロ建て欧州株取引が一斉にロンドンを離れ、EU市場への自由な金融アクセスを失った。ロンドンの金融街“シティが輝きを失う”ということは、グローバル世界において大きな禍根となりそうだ。



Club Activities

January, 2021

On January 11, we held new year celebration meeting for over an hour online due to the pandemic. We shared how each member spent the New Year.

The meeting started with New Year's greeting from Club President Shigetaka Nakamura. He shared that "2020 was filled with the news of COVID-19. Even though a new year has come, it has not lost its high infectivity. Due to this situation, we have become accustomed to have meetings online. Although it is a very convenient tool, we should not use it without thinking. This year, I want to go back to the basics and think about the future of the club."

How members spent their new year is as follows.

"I rarely went out and spent time with books, TV, and radio."

"Every morning, I listen to radio courses of English and classical literature, to study them once again." "I enjoy craft making with electronic circuits." "At home, I'm playing with 'Alexa'(AI assistant)." "This year, my neighborhood association canceled the annual rice cake making party and night rounds. I did not get to see my grandchildren or visit shrine on New Year's Day. So I am practicing my favorite instrument."

During the meeting, there was a lot of interest in the vaccine for COVID-19. It is expected to be given to medical professionals from the end of February and to elderly people aged 65 and over from March. We were able to see how the members are spending their times positively even in this situation.

● Future meeting schedule

- February meeting (Feb 20th)

Keynote speech by Related Secretary Satoru Nagao. He will share about the students in Hyogen-Communication course of Osaka YMCA high school and his insights on the youth of today. (70% of students in this course have experienced a period in which they did not attend school.)

- March meeting (Mar 14th)

Keynote speech by a former newspaper reporter for the Mainichi. "Mystery case with former reporter of local news division- Searching for the truth of "the 9.11 in US" and others."



AKANE HANAMOTO

リレーエッセイ

コロナと私 三浦 直之



〇2020年を振り返って

コロナに驚き、恐れ、不安を抱きながら過ぎた1年だった。1月11日、中西部合同新年会、1月18日、阪和部新年会(和歌山YMCA)に出席、まだそう深刻な状況ではなかった。2月1日、YMCAボウリング大会参加、2月、ダイヤモンドプリンセス号で感染者が発生、拡大し、連日、テレビで放送される。2月22日神戸クラブ90周年記念例会出席。マスクがなかなか手に入らない。3月29日、志村けんさんが新型ウィルスで死去。不安になる。大阪府に緊急事態宣言が出される。(4月7日～5月21日の間)その後、4月16日に全国に拡大。7月9日、西クラブ、同21日土佐堀クラブ=部長公式訪問に出席。第1波が少し小康状態になった。7月政府によるGO TO TRAVELキャンペーンが出される。(その後、2021年2月7日まで一時停止となる)12月、第3波の到来、終息の見通しが見えない。

〇個人としての予防

マスク、三密回避、手洗いを励行する。敵が見えないので、始末に悪い。

〇ワクチンが救世主となるか

今の段階では、不明な点が多いが、安全性が確認されれば、接種するのがベターと思う。

〇コロナ後について

多くの教訓を学んだので、国、個人レベルで今後には是非、活かしていくことが大事である。ホモサピエンス(考える人)とホモルーデンス(遊ぶ人)の二刀流でいきたいと思う。

保険の ちょっと いい話



前回に引き続き医療保険についてお話します。最近の医療保険は日帰り入院から保障という商品が主流ですが、少し前までは5日目以上入院から保障という商品もありました。

この場合例えば10日間入院しても、4日免責となるので、残りの6日間だけしか支払われません。最近ではがんで入院しても2週間程度で退院する場合も多いので、昔から加入したままの医療保険はチェックしておく必要がありますね。



武田 善博

大阪YMCA国際専門学校 高等課程 表現・コミュニケーション学科

表コミ開設までの経緯

大阪YMCA 学校事業部長
鍛冶田千文



私が初めて発達障害の子どもたちと出会ったのは2001年、土佐堀YMCAウエルネスセンター所長として着任した時でした。

■サポートクラス

「発達障害」という言葉が世間に知られる以前から、全国のYMCAでは発達障害の子どもたちのクラスを展開しており、大阪でも1996年から「サポートクラス」として療育を行っていました。

■サポート体育クラス

一見「普通」に見える子どもたちでしたが、学習についていけない、友達ができないなどの悩みがあり、育てにくさを感じていた親から「不器用で体育が嫌い」と聞いて、2001年、楽しみながらルールを覚え、日々鬱積するストレスを解消することを目的に、体育とサポートの両クラスが協働する「サポート体育クラス」を開設しました。

■野あそびクラブ

2003年には「友達がいらないから遠足が楽しめない」との親の声から、自然の中で子ども同士の関係を築き、のびのび活動しながら社会性を育てる野外活動、「野あそびクラブ」を始めました。

■表コミ

いずれも好評で今も継続していますが、今度は「この子にあう高校がない」との親の一言が、「表コミ」開設のきっかけとなりました。他者とのコミュニケーションの取り方を習得できる高校がない。何より『自分はアホだ』『生きている価値がない』と思っている子どもたちに自己肯定感を持たせたい。そのために学習は分かるところまで戻る。その子にあう学び方で支援する。「わかった!」という達成感を実感してほしかったのです。

当初は発達障害を対象に考えましたが、YMCA学院高校(天王寺区)では、元不登校の生徒たちが楽しく学校生活を送っていた実績から、「表コミ」は、より多様な不登校を対象として2005年にスタートいたしました。

今年で16年。今、私たちスタッフは「安心できる環境と関係性で人は変わる」と確信し、生徒たちと日々喜びを分かち合っています。

後記

1月27日の菅首相の「最終的には生活保護がある」との野党に対する答弁に対し、私の通う教会の牧師曰く「パリサイ人が命がけで必死に守ろうとした613もあるといわれるモーセの律法。それに対し、イエス・キリストは神への愛と隣人愛の二つをもって律法を説いた。そして十字架に架けられた。どんなに細分化し完璧にしても、必ず法律から抜け落ちる人たちがいる。それは内面から出たものでなく、外面だけを取り繕おうとするからである」。デジタル化にIT化、それをコロナが後押しし、どんどん人と人との関係が稀薄になっていくような気がします。私たちはどこかで踏みとどまらなければなりません。

Shige



Going Global

EU (欧州連合)と英国

なぜ英国は離脱を選んだのか？

谷川 寛



英国は2021年1月1日にEUから完全に離脱しました。そして、昨年末、難航したEUとのFTA(自由貿易協定)交渉は土壇場で決着し、関税が復活するという最悪シナリオは回避しました。英国は失った国家主権を回復、人々は離脱を祝いました。果たして英国にとって、この結末はハッピー・エンドだったのでしょうか？

ここまでに至るEUと英国の関係・経緯を振り返ってみます。

第二次大戦後、欧州が選択した平和を維持する方法は、国家を越えた枠組みの下で各国が「国家主権」(Sovereignty)を共有する努力をし、ヒト、モノ、サービスの自由な移動を意味する「域内市場」(単一市場)を実現することでした。国家主権の共有(Shared Sovereignty)という発想は、凶暴で歯止め効かないナショナリズム(例えばナチズム)が二つの世界大戦を引き起こしたことの最大の理由であったことの反省から生まれました。永続的平和を確立するためには中核となる連合体を創設し、これに各国の国家主権を譲渡することが不可欠と発案者のジャン・モネ(Jean Monnet)は確信しました。さらに、ナショナリズムを防止するために関税障壁のない広大な欧州市場を創設することが必要と彼は考えました。現在のEUの基本は、この考え方に基づいています。

この自分の国を統治する主権を一部他者に渡すという考え方に英国は当初ためらいましたが、やむなく1973年当時のEEC(欧州経済共同体)に加盟し、この「国家主権」を共有するシステムに参加しました。当時、英国は「欧州の病人」といわれ経済は疲弊しており、広大な欧州市場は最大の魅力でした。この間、英国は日系など先端の製造業の誘致に成功し、製造業が復活、競争力を取りもどしました。EUに譲歩し国家主権を制限されるという選択は苦肉の策でした。その後、EUは深化(Deepening)の政策を推し進める過程で、英国にとって大きな選択をせまられる事態に直面しました。他の東欧諸国からの同国への移民の増加です。

EUを旅行された人は、EUの空港の税関で、こんな経験されたことがおありでしょう。日本人その他EU市民以外の通関窓口には長い列ができていましたが、その隣の「EU PASSPORT」と書かれた窓口はガラ空きで、誰もEU市民は自分のパスポートをチラッと見せるだけで通過して行きました。うらやましくなる光景です。これはEUの市場統合によるヒトの移動の自由を決めたシェンゲン協定によるもので、EU域内では、EU市民は誰でも原則として自由に移動することができます。この協定は英国にとってEUの負の側面となりました。ポーランドなど新規加盟の東欧圏の国々の移民労働者が大量に流れ込み、英国の労働者の職を奪い、失業率は上昇しました。これは大きな国内問題となり、EU加盟が負担になりだしました。

2016年、英国はEUに残留するか、離脱するかを問う国民投票を実施し「離脱」が僅差で勝利しました。1973年に加盟以来45年にわたり築きあげてきた関係を、わずか1回の国民投票で判断するという結末は、英国の国内政治の混迷を表わしています。

本来、英国のEU加盟は、「半身のかまえ」とも表現されました。域内の移動の自由を保障するシェンゲン協定は英国に大きな障害となり、また、英国通貨(Sterling pond)を捨てて、単一通貨ユーロへの参加も拒んできました。T.メイ前首相は、17年9月の演説で「EU加盟国である期間中、英国は一度たりとも完全にくつろいだことはない」と言及しています。多くの英国人は、自分の国をヨーロッパの一部とは見なしていません。結局、EUが政治統合を目指し国家主権を制約することになる束縛を嫌い、離脱する道を選びました。

「国家主権共有」を嫌って、離脱した代償はこれから高くつくこととなります。

英国の離脱をめぐるEUとの交渉は難航しました。この交渉過程で生まれた言葉がブレグジット(Brexit)です。国民投票による単純多数決で、ブレグジット、EU離脱を選びました。英国がEUから国家主権を回復し、自由に法律や、規制を作れるようにするためのもので、東欧圏からの移民も規制できるようになりました。

英国は2020年末までもつれ込んだ自由貿易交渉は土壇場で決着し、関税が復活する最悪シナリオは避けられました。しかし、EUとの国境は復活し、通関業務などの手間やコストがかかることとなります。英国経済にとっては、今もEUの存在感は大きく、19年は貿易総額の47%をEUの27カ国が占めています。

B.ジョンソン首相は、EUとの合意内容に満足している、として、人々は主権回復を祝いました。しかし、今回のブレグジット(EUからの離脱)の結果、積み残した課題は多く残りました。北アイルランド国境問題は曖昧で残り、スコットランドはEU残留の意向であることから「英国から独立」の機運が高まりそうです。

さらに、将来に禍根となる問題は、金融サービス分野で英国はEU全域で金融事業を営む共通免許の「単一パスポート制度」から外れました。事実、年明けの4日、ユーロ建て欧州株取引が一斉にロンドンを離れた。英経済の8割を占めるサービス分野でのEUとの合意は積み残しとなり、EU市場への自由な金融アクセスを失いました。ロンドンの金融街「シティが輝きを失う」ということは、経済のソフト化が進むグローバル世界の中で、英国経済にとって大きな禍根となりそうです。「国家主権」の共有を嫌って、離脱した代償は英国にとって高くつきそうです。